

平成27年度 「確かな学力」研究推進校事業

研究主題

「確かな学力を身に付けた児童の育成」

～教科担当制を中心とした

指導体制の工夫と授業の改善・充実を通して～

第1年次／2年間指定

館林市立第三小学校

主題設定の背景

○群馬県教育委員会指定

「確かな学力」研究推進校(平成27年度～28年度)

知識・技能を活用して課題を解決できる児童の育成を目指す

○館林市の重点課題

(1) 児童生徒主体の学習活動

授業力の向上、学力向上コーディネーターを中心とした組織的な取組、問題解決 的な学習

(2) 授業の改善・充実

「伸ばしたい資質・能力」の明確化、本時のねらいの明確化と振り返り、自力解決の場の設定、言語活動の充実、個を伸ばすきめ細やかな指導

(3) 家庭・地域との連携

家庭学習の充実に向けた保護者との連携、学校支援センター等の活用

主題設定の背景

- 群馬県教育委員会指定
小学校高学年教科担当制の推進と理科専科の活用
(平成24年度～26年度)

学力向上にかかわる成果として

指導体制

- 教科担当制部会の定例化(月1回)による授業時間の確保。
- 教材研究の時間が十分取れる。

児童・保護者の声

- 「勉強している内容が分かる」(児童) H23 93 % ⇒ H27 96 %
- 「授業を理解している」(保護者) H23 77% ⇒ H27 91%

授業の充実

- 指導内容の系統性を意識した授業ができる。
- 複数の教員が個々のよさに目を向けることができ、児童の学習意欲の向上や生徒指導に成果があった。

主題設定の背景

○学力向上にかかわる3つの課題

1. 教科担当制部会において、時間割や時数調整等
は行っていたが、指導方法についての研修は十分で
はない。
2. きめ細やかな指導において、TT指導や習熟度別
少人数指導が十分に図られていない。
3. 各教科において、活用力を伸ばす指導が十分に図
られていない。

研究のねらい

教科担当制を中心とした、指導体制を工夫し、授業の改善・充実を図れば、児童の主体性が育まれ、確かな学力を身に付けた児童を育成することができることを、実践を通して明らかにする。

本校の研究について

学校教育目標の実現

研究主題: 確かな学力を身に付けた児童の育成

基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている児童

知識・技能を活用して課題を解決できる児童

主体的に学習に取り組む児童

指導体制の工夫

授業の改善・充実

研究の見通し

次のような指導体制の工夫と授業の改善・充実を図れば、確かな学力を身に付けた児童を育成することができるであろう。

教科担当制を中心とした

指導体制の工夫

- 教科担当制における教師の専門性を生かした指導
- 少人数指導、TT指導による習熟の程度に応じた支援

授業の改善・充実

- 考え、表現させる授業の構築

担当		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実 ・考え、表現させる授業の充実	授業者 教科部会 学力向上 コーディネーター	学力・学習状況調査 児童の解答状況の分析 「本時のねらい」「めあての提示」「振り返りの時間」を意識した授業構想・実践				1学期の単元 テストの分析 指導法の見直し ・共通理解	学力・学習状況調査結果 の分析と対応策の策定			2学期の単元 テストの分析 考え、表現させる授業に充実に向けて ○「習得」→「定着」→「活用」の流れを意図した授業 ○「活用」に視点を当てた授業 ○言語活動を意識した授業			学校評価・子どもの 変容に基づく評価・改善
取組Ⅱ 指導体制の工夫 ・教科担任制 ・補習体制の確立	教務主任 特配教員 教科担当 学力向上 コーディネーター	教科担当制（5・6年生）・算数習熟度別指導（3～6年生）・算数TT指導（1・2年生） 教科担当制部会の定期的開催（毎月第1水曜日） 指導体制と指導方法の確認 指導体制と指導方法の見直し・個別支援、補習時間の確保 各教科必要に応じたTT指導 パワーアップタイムの実施 → 改善 → 充実										学校評価・子どもの 変容に基づく来年度に向けての評価	
取組Ⅲ 指導力の向上 ・校内研修の充実 ・管理職等の日常的な指導・助言	研修主任 学力向上 コーディネーター 授業者	校内研修：全職員参加の研修の方向性確認 推進委員会 全体研修 班別研修 授業仮説の検討・決定						一人一授業を中心とした実践・授業改善 提案授業 公開授業① 公開授業②				子どもの変容に基づいた授業分析・評価	
取組Ⅳ 家庭・地域との連携 ・家庭学習の工夫・改善	学力向上 コーディネーター 学級担任 専科教員 特配教員	「学習の手引き」配付 総談会での保護者との共通理解 学校評価分析・改善① 学校評価分析・改善②											学校評価を踏まえた取組の見直し

指導体制の工夫

○高学年 … 教科担当制

担任4名 → 国語、社会・英語活動、算数(上位)、体育・図工

専科3名 → 算数(下位)、理科、音楽・家庭科

高学年の教科担任制と専科の授業における授業参加(TT)

○中学年 … 算数科における習熟度別少人数指導

担任 → 「チャレンジコース」(上位)

専科 → 「じっくりコース」(下位)

○低学年 … 算数科におけるTT指導

担任・専科 → T1とT2の役割分担を明確にした授業

★教科担当制の指導体制

○教科担当の分担

A教諭→担任・国語

B教諭→担任・社会・英語活動

C教諭→担任・算数(上位)

D教諭→算数(下位)

E教諭→理科

F教諭→音楽・家庭科

G教諭→担任・体育・図工

※赤字は中学教科免許を持っている

★教科担当制の指導体制

○高学年の教科担任制と専科の授業における
授業参加(TT)

- ・国語 … 「話す、聞く」活動の際のモデル
漢字・語句の指導
- ・社会 … 課題別調べ学習
- ・算数 … 複数の方法で考える時間
単元末の定着の時間
- ・理科 … 児童の安全面に配慮する実験
- ・体育 … 器械運動

★教科担当制部会の取組

教科担当制部会（毎月第1水曜日）

メンバー

教頭、教務（教科担当部長）

学力向上コーディネーター、各教科担当

内容例

【指導体制の調整・確認】

【指導方法の見直し】

【情報交換】

教科担当制部会にて

★指導体制の調整・確認

- 次月の学校行事等におけるコマの調整・確認
- 授業参加(TT活用時間)の調整・確認

教科担当制部会にて

★指導方法の見直し

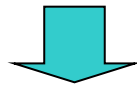
- 各教科の「指導の重点」の確認
- 知識・技能を活用する力を伸ばす授業に向けての話し合い
- 言語活動の充実に向けての話し合い
- 児童主体の学習活動に向けての話し合い
- 宿題の内容の見直し
- パワーアップタイムの内容の見直し

授業の改善・充実

「考え、表現させる授業の充実」に向けて

1. 「習得」→「定着」→「活用」の流れを意識した授業（単元構成）

2. 「活用」に視点を当てた授業



国語・社会・算数・理科・体育・音楽の6教科で
「授業の改善・充実のための取組」を作成

「授業の改善・充実のための取組」(社会)

～知識・技能を活用する力を伸ばす授業の工夫～

1. めあて(ねらい)の設定において

○単元のはじめに

- ・児童が関心をもつような資料を提示して、そこから出た驚きや疑問などを基に単元を貫く学習課題を設定する。
- ・資料は児童に読み取らせたい事柄や情報を明確にして提示する。
- ・単元を貫く学習課題について自分なりの予想をたてる。
- ・課題に対する予想から調べるポイントを作り、それに沿って課題を追究する。
- ・見通しをもって課題解決ができるように、予想を確かめるにはどのような方法が良いか話し合い、学習計画を作成する。

○授業のはじめに

- ・単元の始めに立てた学習計画を基に、本時では共通課題に対する追究場面のどの時間に当たるのかを確認し、本時の課題を設定する。

2. 課題解決のための支援(考え、表現させる授業の工夫)

- ・児童に資料を提示する際には、児童の実態に合わせ、その資料が授業のねらいの達成や単元を貫く学習課題の解決に結びつく内容であるかや、その資料から何を読み取らせたいかを教師が明確にもっておくようにする。
- ・児童が必要な資料を集める際は、その資料が調べるポイントに沿った資料であるかどうか判断して選択するようにする。
- ・児童が写真やグラフなどの資料を読み取る際は、既習事項を生かして、読み取るポイントを確認したりする。
- ・児童が集めた情報をまとめる際は、年表や関連図などの図や文章などで、ノートやワークシートに書く。
- ・学習課題に対する答えを考える場面では、短文にまとめたり、キーワードを使ってまとめるようにする。また、調べたことを比較・関連させたり、や社会的事象の意味を考えたりして考察するようにする。
- ・児童が主体的に学習に取り組み、知識が十分に定着できるよう、ジグソー学習などを取り入れる。

3. 振り返り・まとめにおいて

○授業のおわりに

- ・本時の課題に対するまとめは自分の言葉で書かせるようにする。うまくまとめられない児童には、授業に出てきたキーワードなどを使うよう伝える。

○単元のおわりに

- ・課題に対して、自分なりの結論を導けるようにする。
- ・追究場面で調べたことや考えたことを地図や年表、関係図などに整理して再構成させる時には、写真や絵、グラフなどを入れてより見やすいものにさせ、矢印や線で関係を結んだ時には、その線の意味を説明させる。
- ・交流をする際は、考えを広げたり深めたりできるようにしたり、一人一人が発表できたりするように、小グループなどで発表させるようにする。

課題の設定

追究する場面における手立て

まとめの場面における手立て

「授業の改善・充実のための取組」(理科)

～知識・技能を活用する力を伸ばす授業の工夫～

1. めあて(ねらい)の設定に関わって

○単元のはじめに

- ・児童が見通しをもって、主体的に問題解決を図ることができるようにするために、意図的体験活動(自由試行)を取り入れたり、児童の意識の中でブレが生じる自然観察や事象提示を行う。
- ・児童が問題意識をもって学習に取り組むことができるように、児童の意識のブレから発せられる声や疑問を基に問題を設定していく。

○授業のはじめに

- ・学習課題は、結論で児童に導かせたいことが答えとなるような問題文を提示する。
- ・本時の学習課題に関する既習事項や児童の生活体験活動を確認する。

2. 課題解決のための支援(考え、表現させる授業の工夫)

<予想の場面>

- ・目的意識をもち、見通しをもって主体的に学習に取り組めるように、根拠を明らかにした予想を立てる。
- ・単元のはじめで行った体験活動や既習事項を基に、個別支援を行いながら予想を立て、それぞれの予想をもとに班やクラスで交流を図る。
- ・観察・実験でどのような結果が得られれば、自分の予想が確かめられるのか問いかけるようにする。

<観察・実験>

- ・観察・実験の方法に児童の気づきや考えを反映させたり、習得した方法を活用させたりすることで、主体的な取組を図る。
- ・少人数での観察・実験を行い、技能習得を図ることができるようにする。
- ・観察・実験で、基本操作の習得と安全面の配慮が必要なときは、ITを組んで授業を進め、きめ細かな看取りと支援を行う。
- ・観察・実験の結果は、図やグラフを活用して、相手にわかりやすくまとめクラス全体で共有できるようにする。

<考察>

- ・観察・実験の結果と予想を比較して、どのようなことが言えるのか筋道立てて考えられるようにする。
- ・本時の結果と習得した知識とを比較しながら考察させる。
- ・個々に考察させたあと、班やクラス全体で意見交流を図り、考えを深めたり、広げたりする。
- ・学年に応じて、「比較する力」「関係付ける力」「条件制御する力」を活用して推論することができるようにする。
- ・学習したことを生活の中で発見したり、当てはめたりできるようにする。

3. 振り返り・まとめにおいて

○授業のおわりに

- ・それぞれの児童の言葉をつなぎながら、科学的用語を使い、クラス全体でめあてに沿ったまとめを行う。
- ・本時の授業の中で出た、新たな疑問や問題を確認する。

○単元のおわりに

- ・単元の終わりでは、実感を伴った理解を図るために、習得した知識が日常生活に活用されている事象を取り上げて説明する場面を設定する。

課題の設定

追究する場面における手立て

まとめの場面における手立て

公開授業(国語)

「授業の改善・充実のための取組」(国語)から

○ 書くこと

☆相手や目的に応じた記述ができるよう、取材・文章構成・記述について考える場を設けるとともに、できあがった文章を推敲したり、友だちと交流したりする場も合わせて設ける。

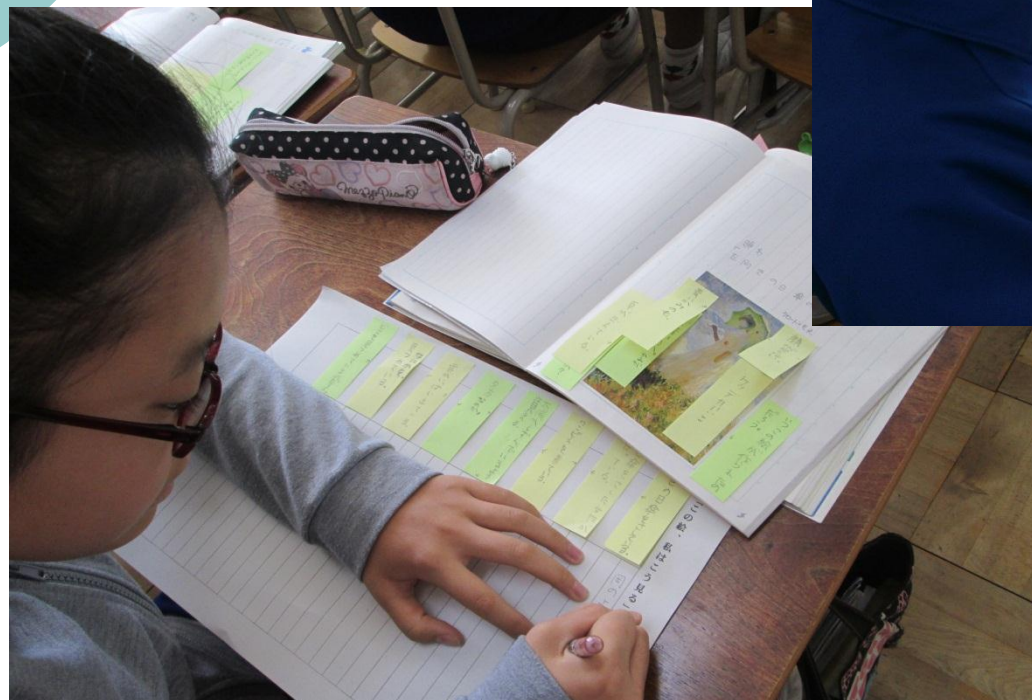
公開授業(国語)



児童同士の交流に向けて
活動のポイントを確認



公開授業(国語)



取材・文章構成・記述について考える場の設定

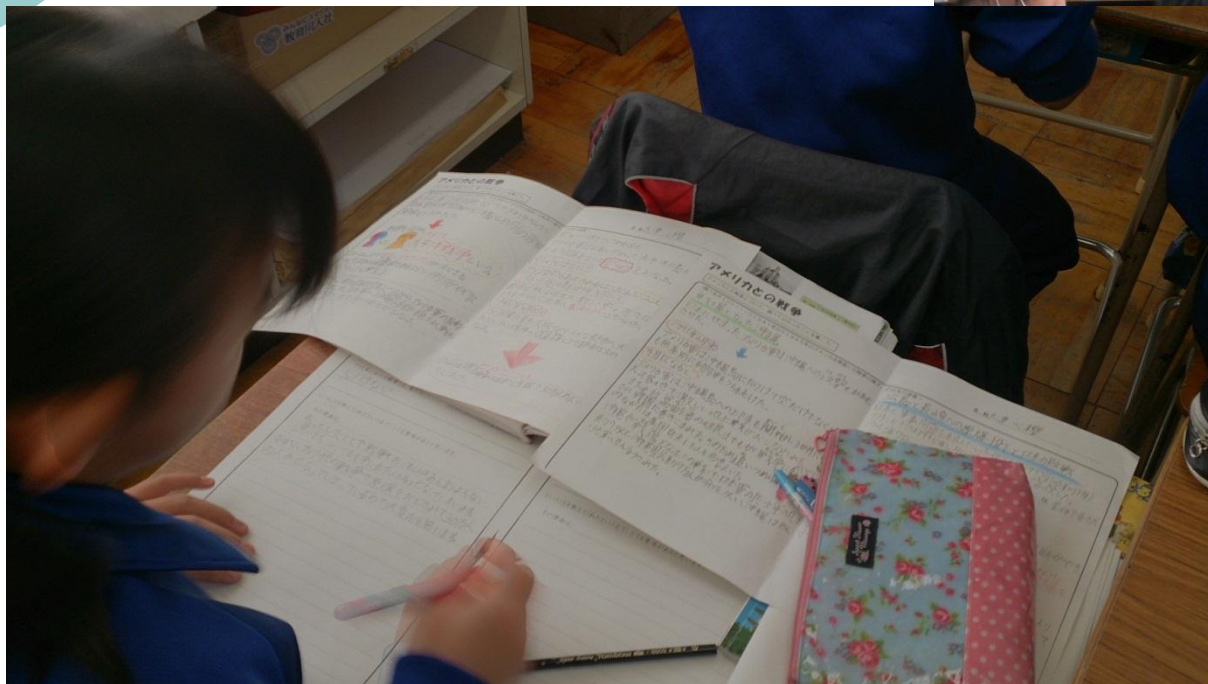
公開授業(社会)

「授業の改善・充実のための取組」(社会)から

- 学習課題に対する答えを考える場面では、これまで学習したことを使って短文にまとめたり、キーワードを使ってまとめたりするようにする。また、調べたことを比較・関連させたり、社会的事象の意味を考えたりして考察するようにする。

公開授業(社会)

調べたことを比較・関連させたり、社会的事象の意味を考えたりして考察



公開授業(社会)



伝え合い、知識や考え
を広げる場面

公開授業(算数・チャレンジコース)

「授業の改善・充実のための取組」(算数)

- 一人一人が自分の考えをもてるように、自力解決の場を必ず設定し、考える時間を確保する。→☆1つの方法で追究できたら、他の方法で追究させるようにする。
- クラス全体で理解を深められるように、自分の考え方を説明したり、友達の考え方を読み取ったりするなど、根拠を明確にした考え方を交流する場を設ける。

公開授業(算数・チャレンジコース)

自力解決の場面



根拠を明確にし、考え方を交流する場面

公開授業(算数・じっくりコース)

「授業の改善・充実のための取組」(算数)から

- 活用する力を伸ばすために、既習の基礎的・基本的な知識・技能をもとに、考えや根拠を記述したり、説明したりする活動を行う。
- 課題解決に向けて考えを深めるために、明確な視点を示して比較・検討できるようにする。

公開授業(算数・じっくりコース)

考えや根拠を記述したり
説明したりする活動



公開授業(理科)

「授業の改善・充実のための取組」(理科)から

- 観察・実験の方法に児童の気づきや考えを取り入れたり、既習の方法を活用させたりすることで、主体的な取組を図る。
- 本時の結果と既習内容を比較したり、観察・実験の過程での気づきや発見を基にしながら考察できるようにする。
- 個々に考察した後、班やクラスで考えを交流し検討することで、考えを深めたり、広げたりする。その上で、再び自分の言葉で考えをまとめられようにする。

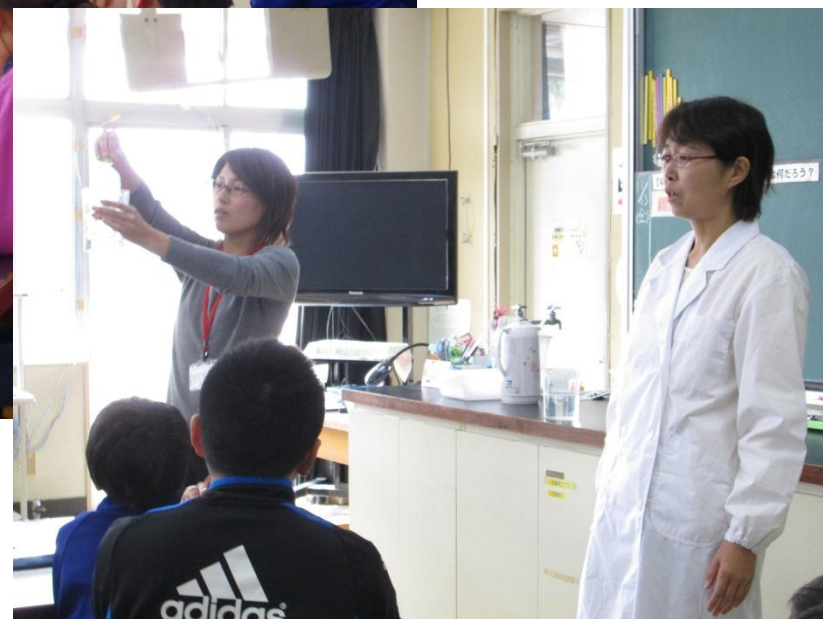
公開授業(理科)

既習や経験をもとに
予想



観察・実験の方法に児童
の気づきや考えを取り入れ
たり、既習の方法を活用

公開授業(理科)



担任とのTTの様子

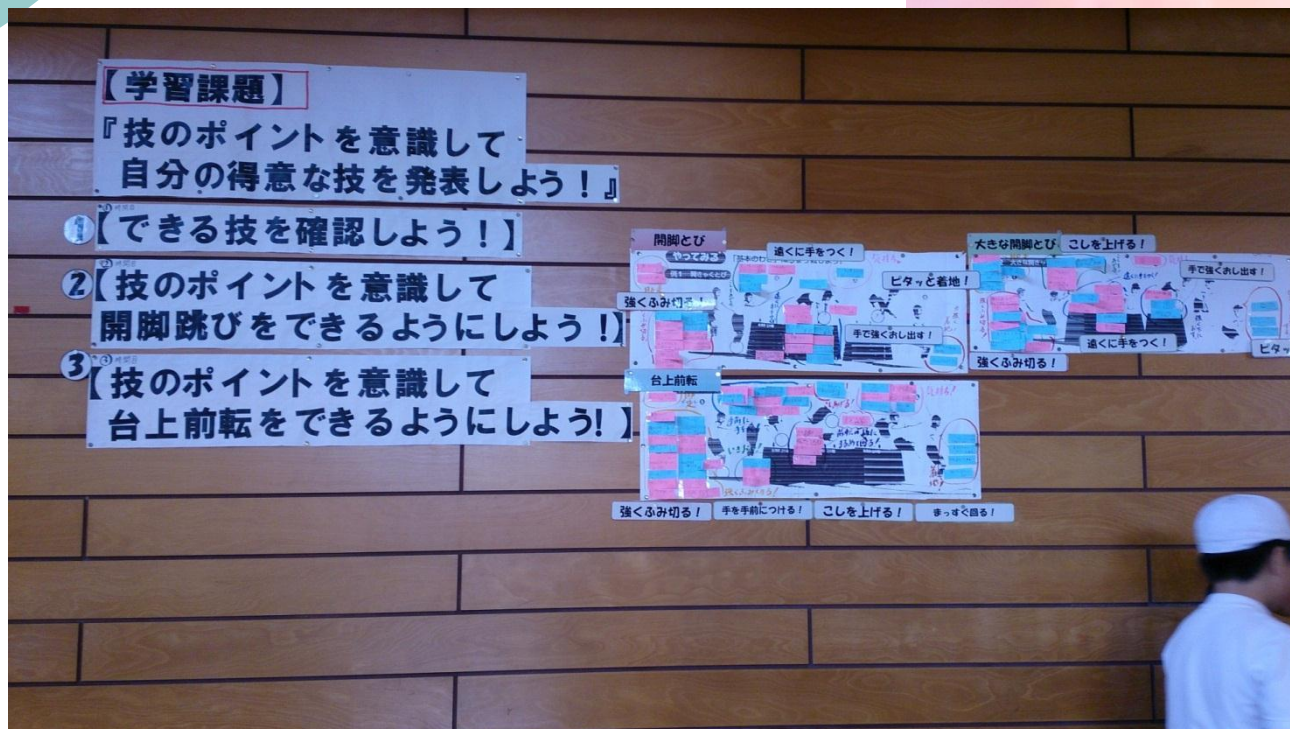
公開授業(体育)

「授業の改善・充実のための取組」(体育)から

- 運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、技に関連した易しい運動を取り入れたたりスモールステップの練習を行える場を設定したりして、段階的に取り組めるようにする。
- 本時の課題を示すとともに、「技のポイント」をキーワードにして示した掲示物を使うなど視覚化することで、運動のねらいや「技のポイント」を明確にした授業づくりに努める。

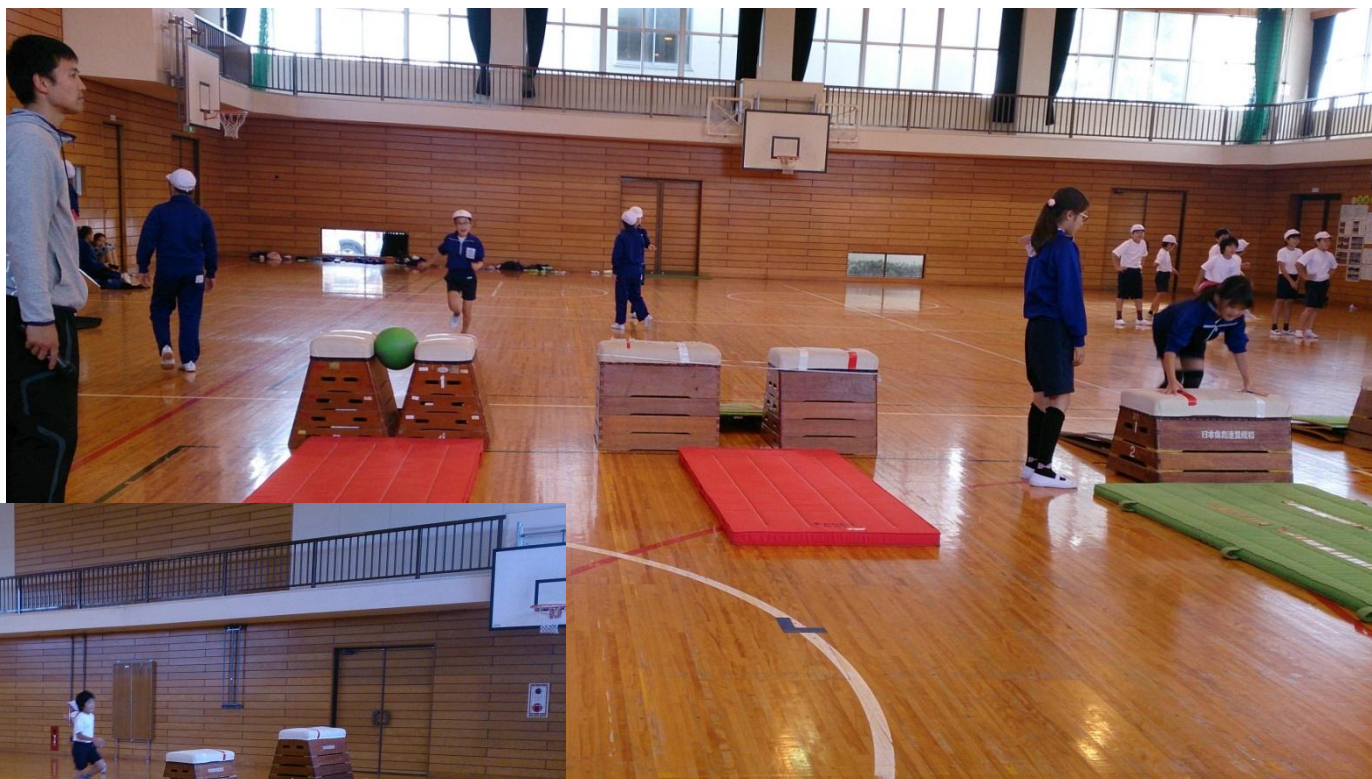
公開授業(体育)

運動のねらいや「技のポイント」を提示



「技のポイント」をキーワードにして示した掲示物

公開授業(体育)



スモールステップの練習を行える場を設定

算数における指導体制の工夫

○中学年・高学年

… 算数科における習熟度別少人数指導

担任 → 「チャレンジコース」(上位)

専科 → 「じっくりコース」(下位)

○低学年 … 算数科におけるTT指導

担任・専科 → T1とT2の役割分担を明確にした授業

算数科における TT指導及び習熟度別少人数指導の取組



練習あが

- ① みんなでしつをねりあげる。
- ② 説明. 定形文.

「お」 キーワードに
次に 算数的用語
だから 単語
説明

「ハカセ」は必ず
+
α.

① 児童のこぼれが

② 定着.

活用 同等のもの
くり返し

チャレンジ

- ① 色々な意見 → 共通点.
(比較.)

考えの良さを見つける.

- ② 書いた児童と説明は
別にする.

「ハカセ」はどこか?

① リンクする時に.
定着 + 補充 (+ アイテム)

見通して残ったものは
自学で考えること + α.

② 活用 同等 + 既習事項の活用

じっくり

も

実生活にからんだもの.

具体物

具体物. 絵. 図で提示. 想起

① 児童の意見を生かして. 見通しを全

② 自分で好きな考えを
選んでいく. 終わったら
戻す.

③ 全体で同じ考えを
取り出す (-79% 考え)

④ 選択

★算数科における効果的なTT指導①

○三小のTT

→ 「T1とT2の役割分担を明確にした授業」

【課題把握の場面】

- ・児童が問題場面をイメージし、題意を把握できるようにするために、二人の教員が協働して問題を提示する。
- ・「**板書**」と「**実物投影機等によるノート指導・机間支援**」に分担（他の場面でも）



★算数科における効果的なTT指導②

【課題追究の場面】

・自力解決の場面は、

「上位への支援」(別の考え方への促し・板書児童の抽出)と「下位への支援」(お助けコーナー・個別支援)に分担



★算数科における効果的なTT指導③

【まとめの場面】

- ・「定義やキーワード」と「全体のまとめ」を分担
- ・適用問題の場面は「支援」と「見取り」を分担



★算数科における効果的な 習熟度別少人数指導①

○三小の習熟度別少人数指導

→「各コースの伸ばしたい資質・能力を明確にした授業」

【問題把握の場面】チャレンジコース・じっくりコース

- ・実生活の想起や体験活動を通して問題提示
- ・「絵図の提示」「絵図や具体物の提示」
- ・問題の数値の工夫(簡単な数値に)
- ・既習事項との類似点や相違点を踏まえた課題(めあて)の設定
- ・課題解決に使えるような既習事項をもとに、
 - 各自で見通しを立てる(場合によっては全体で)
 - 全体で見通しを共有

★算数科における効果的な 習熟度別少人数指導②

【課題追究の場面】チャレンジコース・じっくりコース

・自力解決の場面では

→見通しをもとに、各自で解決方法を選択し、
解決できたら別の考え方で解決方法へ

→見通しをもとに、全体で同じ考え方の解決
方法に取り組み、解決できたら別の考え方で
の解決方法へ

★算数科における効果的な 習熟度別少人数指導③

【課題追究の場面】チャレンジコース・じっくりコース

・考え方の発表場面では

各自の考え方を説明したり、友だちの考え方を
読み取ったりし、根拠を明確にした考え方を交流

→取り上げる考え方を精選。友だちの考え方を、
別の児童が説明。

→どの児童にも身に付けさせたい考え方を、具体
物・図・式などを用いて複数の児童で説明

(「まず」「次に」「だから」などの定型文を活用)

方 さくらんぼ、位取表

さくらんぼ

312×3

- 一の位
 $3 \times 2 = 6$ 二が 筆算の1
 十の位
 $3 \times 10 = 30$ 二が 筆算の2
 百の位
 $3 \times 300 = 900$ 二が 筆算の3

高久未悠

たし算

$300 + 300 + 300 = 900$
 これは③と同じ
 $10 + 10 + 10 = 30$ これは②と同じ
 $2 + 2 + 2 = 6$ これは①と同じ

酒井 菜唯

まず312を300と10と2に分ける。
 そして、2が3つだから一の位は $3 \times 2 = 6$ 。
 これが1番とおなじです。
 次に10が3つで十の位は $10 \times 3 = 30$ 。これが2番とおなじです。
 さらに300が3つで百の位は $300 \times 3 = 900$ 。これが3番とおなじです。
 だから答えは936。言葉 永井 糸少奈

百の位	十の位	一の位
(100) (100) (100)	10	00
100 100 100	10	00
100 100 100	10	00

①まず一の位の 2×3 をして6。ここが①のところ。
 ②次に十の位の 1×3 をして3。ここが②のところ。
 ③さらに百の位の 3×3 をして9。ここが③のところ。
 ④だから答えは936。

チャレンジコースの児童が、友達の考え方を説明しています。



★算数科における効果的な 習熟度別少人数指導④

【課題追究の場面】チャレンジコース・じっくりコース

・比較・検討の場面では

児童が課題解決に向けて考えを深めることができるように、明確な視点を与える。

「よい点は？」「速くできるのは？」「簡単にできるのは？」
「正確にできるのは？」「いつでもできるのは？」・・・など

→考えを比較したり関連付けたりしながら、よりよい考えを話し合う。

→教師が支援しながら、児童の考えを丁寧に読み取らせ、検討させる。

★算数科における効果的な 習熟度別少人数指導⑤

【まとめの場面】チャレンジコース・じっくりコース

・本時の学習を振り返り、

→児童の言葉でまとめる。

→キーワードを与えてまとめる。

(※本時のめあてとリンクするように)

・適用問題・単元末の復習問題では

→発展問題まで取り組み、応用力を伸ばす

→既習の問題と同レベルの問題に複数取り組み、基礎・基本の定着を図る

★その他の取り組み(1)

「パワーアップタイム」の実施

基礎・基本の定着と、活用力を伸ばすため

- ・給食後の10分間
- ・国語と算数の問題を隔週で
- ・活用力を伸ばす問題(文章問題・応用問題)
- ・基礎的・基本的事項の定着を図る問題
(漢字・言葉・計算練習)

パワーアップタイム
どの児童も真剣に取り組んでいます



★その他の取り組み(2)

「家庭学習がんばり週間」の実施

家庭学習の改善・充実と、家庭との連携を図るため

- ・毎月最後の一週間
- ・児童による啓発活動(お昼の放送)
→三小がんばりキッズによる「自分の今週のめあて」や、「昨日行った自主学習の内容」、「読んだ本」などの紹介
- ・家庭学習記録カードに記入(児童・保護者・担任)

家庭学習記録カード

NO.2

6年 1組 名前



◎ 今週1週間、家庭学習を記録しましょう。

今週の目標

各科目の苦手をなくす

9月~	宿題	自主学習	読書	学習	お家の人
10月	やったこと	やったこと	読んだ本の題名	合計時間	のサイン
9/28 (月)	漢練 国ドリ 算ドリ	社会	超舌ガール	50分	OK KID'S REVIEW
29 (火)	漢練 国ドリ 算ドリ	社会	カレラズ	72分	
30 (水)	漢練 国ドリ 算ドリ	音読 算数	せんいんぶん	64分	
10/1 (木)	漢練 国ドリ 算ドリ	音読 国語プリント1	Fのしめは	61分	
2 (金)	朝寝早起き 朝=飯			0分	

感想

人物を覚える事や、算数が苦手だったので自主学習ですこしでも勉強強ができたので良かったです。
毎日しっかり取り組んでいたのがお褒めです。1つのまじかるともいいですね。内容は楽しかったです。

合計学習時間 3 時間 47 分

お家の方から 毎日、自分から頑張るで勉強できました。頑張りました。

○金曜日に感想を書いたら、お家の人にひとこと書いていただけますよ

○10/5(月)に、またカードを出しましょう。

6(火)

家庭学習記録カード

6年 1組 名前



◎ 今週1週間、家庭学習を記録しましょう。

今週の目標

毎日自学を一ページはやる。

10月	宿題	自主学習	読書	学習時間	おうちの人	先生の	
	やったこと	やったこと	本の題名		のサイン	サイン	
26 (月)	漢字1ページ 国ドリ1枚 算ドリ1枚	音読3回 漢字1ページ		70分	OK KID'S REVIEW		
27 (火)	漢字1ページ 国ドリ1枚 算ドリ1枚	音読3回 漢字1ページ		70分			
28 (水)		音読4回 算数プリント1枚		30分			
29 (木)	漢字1ページ 国ドリ1枚 算ドリ1枚	音読5回 算数プリント1枚		75分			
30 (金)	国ドリ1枚 算ドリ1枚 漢字1ページ	音読5回		70分			
感想	毎日自学をがんばりました。 あと休みの日に勉強したいです。 毎日やる学習時間あんまりないです。 いいと思います。		合計学習時間	4時間 40分			
お家の方から 今日がんばりました。 テスト見るにがんばっている様子わかりました。							

○カードは毎日提出しましょう。いすく、やり取りはしたい。色々なことが読書の
○金曜日に感想を書いたら、お家の人にひとこと書いていただけますよ。いいね、こいつ
○11/2(月)に、またカードを担当の先生に出しましょう。このお礼です！